

荒川区民総幸福度（GAH）レポート

～区民アンケート調査の自由記述から見えてくる幸福実感度～



荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査では、これまで各指標の実感度や重要度を中心に分析を進め、紹介してまいりました。

今回のレポートでは、区民アンケート調査において幸福実感に関連した考えを自由に記載いただいている「自由記述」欄について焦点を当て、これと「幸福実感度」との関係から見えてきた傾向について紹介します。自由記述には健康面や子育て面など様々なことが記載されていますが、これらの内容と幸福実感度には深い関わりがあることが分かりました。また、自由記述の中でも、「幸福」に感じる傾向や、「不幸・不安」だと感じる傾向が強い項目と、それらを記載した方々の属性の傾向についても明らかになりました。

自由記述には、回答者の思いや考え等が直接明記されており、選択肢回答からだけでは明らかにならない面を把握できるというメリットがあります。今回のレポート発行をきっかけとして、今後も、自由記述の内容について更に深く分析することで、より具体的かつ詳細な傾向を明らかにし、幸福度向上のための方策案等について考えてまいります。

目次

はじめに	1
I 分析で主に使用する3つの質問.....	4
II 幸福実感度と自由記述との関係性.....	5
(1) 「幸福実感度」の回答内容と、「自由記述」の記載率.....	5
(2) 本レポートでの自由記述の分析方法.....	5
(3) 自由記述の回答を分類する基準となる13項目の紹介.....	6
III 自由記述の内容から見た平均幸福実感度.....	7
(1) 幸せにとって重要だと思うことに対する記載者数と平均幸福実感度.....	7
(2) 不幸・不安だと感じることにに対する記載者数と平均幸福実感度.....	8
IV 幸福実感度別に見た、自由記述の分析.....	9
(1) 幸福実感が高い方と低い方の「幸せ」、「不幸・不安」.....	9
(2) 幸福実感が高い方の「幸せ」と「不幸・不安」.....	9
(3) 幸福実感が低い方の「幸せ」と「不幸・不安」.....	10
(4) 幸福実感度と「幸せ」、「不幸・不安」から見えてきたこと.....	11
V 3つの分析結果を踏まえて.....	12
(1) 幸福実感度と自由記述の関係性から見た「幸せ」と「不幸・不安」.....	12
(2) 属性について.....	14
(3) 自由記述と属性の関係性について見ていく際の注意点.....	14
VI 「幸せ」に関して「家庭生活・家族関係」について記載した方の属性.....	14
VII 「不幸・不安」に関して「仕事・経済状況」について記載した方の属性.....	15
【コラム】 不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」を記載した方の 「産業分野」指標の実感度.....	16
VIII まとめ.....	18
巻末資料.....	20
(1) 「幸せ」に関して「家庭生活・家族関係」を記載した方の属性.....	20
(2) 「不幸・不安」に関して「仕事・経済状況」を記載した方の属性.....	22
(3) 自由記述と幸福実感度との関係性に関する早見表.....	24

はじめに

荒川区では、誰もが幸せを実感できるまち「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指して、荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハピネス：GAH）に関する取組を進めており、区民の皆様
の幸福度を測るための「荒川区民総幸福度（GAH）指標」を作成しています。GAH指標は、2
ページにある図表1のとおり、荒川区が目指す6つの都市像に対応した、「健康・福祉」、「子育て・
教育」、「産業」、「環境」、「文化」、「安全・安心」という6つの分野ごとの指標と、これらを総合す
る「幸福実感」指標の、全46指標で構成されています。区では、これらの指標を用いて、平成
25年度から毎年度、「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査（以下「区民ア
ンケート調査」と表記します）（※）を実施してきました。

荒川区自治総合研究所（RILAC）は、区が抱える課題等について、横断的に調査研究を行
い、区に対して政策の提言等を行っています。これらの一環として、区民アンケート調査の分析
結果を広く皆様にお知らせするため「荒川区民総幸福度（GAH）レポート」を発行しています。

今回のレポートでは、区民アンケート調査の「自由記述の回答」について焦点を当て、「その回
答内容」と「幸福実感度に関する回答内容」を組み合わせて分析を行い、そこから見えてきた傾
向についてご紹介します。

（※）区民アンケート調査の概要

- 調査期間：平成25年度から毎年1回実施
（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）
- 調査対象：満18歳以上（平成27年度までは満20歳以上）の荒川区民4,000人（無作為抽出）
- 回収方法：郵送又は電子申請
- 調査項目：
 - ①荒川区が目指す6つの都市像に対応した6分野ごとの指標（45指標）及び
幸福実感指標（1指標）の実感度
⇒5段階評価で回答
 - ②回答者の幸せにとっての指標の重要度
⇒各分野の上位3指標を回答
 - ③回答者の幸せにとっての分野の重要度
⇒6分野の順位を回答
 - ④自由に記述して回答する設問
 - ⑤回答者自身の属性

図表 1 荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系

		分野	上位指標	下位指標	
荒川区民総幸福度（GAH）指標	幸福実感	健康・福祉	健康の実感	体の健康	運動の実施
					健康的な食生活
					体の休息
				心の健康	つながり★
					自分の役割
					心の安らぎ
		健康環境	医療の充実		
			福祉の充実		
		子育て・教育	子どもの成長の実感 ¹	「生きる力」	規則正しい生活習慣
					「生きる力」の習得
				家族関係	親子コミュニケーション
					家族の理解・協力
	子育て教育環境			子育て・教育環境の充実	
				地域の子育てへの理解・協力	
	望む子育てができる環境の充実				
		産業	生活のゆとり	仕事	生活の安定★
	ワーク・ライフ・バランス				
	仕事のやりがい				
	地域経済			まちの産業	
				買い物の利便性	
まちの魅力					
環境	生活環境の充実	利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー		
			心のバリアフリー		
			交通利便性		
		快適性	まちなみの良さ		
			周辺環境の快適さ★		
		持続可能性	持続可能性		
文化	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	余暇活動	興味・関心事への取組		
			生涯学習環境の充実		
		地域文化	地域への愛着		
			地域の人との交流の充実		
			地域に頼れる人がいる実感		
			文化的寛容性		
安全・安心	安全・安心の実感	犯罪	防犯性★		
		事故	交通安全性★		
			生活安全性★		
		災害	個人の備え		
			災害時の絆・助け合い		
		防災性			

区民アンケート調査では、それぞれの指標についての実感を「1（まったく感じない）」から「5（大いに感じる）」までの5段階でお答えいただきました。

※「上位指標」とは、各分野の総合的な実感を把握するための指標です。

※「下位指標」とは、各分野のより具体的な実感を把握するための指標です。

※★印の指標は、質問文で「不安を感じますか」「危険を感じますか」など、負の実感を尋ねています。実感度を算出する際には、負の実感を持つ人の実感度が低くなるように換算しています。

¹ 子育て・教育分野は、18歳未満の子どもがいる方のみを対象とした質問（指標）になります。

図表 2 荒川区民総幸福度（GAH）指標の質問文一覧

分野	No.	指標	質問文
	1	幸福実感	あなたは幸せだと感じますか？
健康・福祉	2	運動の実施	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？
	3	健康的な食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？
	4	体の休息	体を休めることができていると感じますか？
	5	つながり★	孤立感や孤独感を感じますか？
	6	自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？
	7	心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？
	8	医療の充実	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実していると感じますか？
	9	福祉の充実	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？
	10	健康の実感	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？
	子育て・教育	11	規則正しい生活習慣
12		「生きる力」の習得	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？
13		親子コミュニケーション	親子の間にコミュニケーションがとれていると感じますか？
14		家族の理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？
15		子育て・教育環境の充実	お住まいの地域における子育て・教育に関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると思いますか？
16		地域の子育てへの理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？
17		望む子育てができる環境の充実	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？
18		子どもの成長の実感	お子さんが健やかに成長していると感じますか？
産業（生活・産業・経済）	19	生活の安定★	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？
	20	ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？
	21	仕事のやりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？
	22	まちの産業	荒川区の企業（お店や町工場など）は元気で活力があると感じますか？
	23	買い物の利便性	お住まいの地域での買い物が便利だと思いますか？
	24	まちの魅力	荒川区は、区外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか？
	25	生活のゆとり	経済的な不安がなく、買い物などに不便のない生活を送ることができていると感じますか？
環境（生活環境）	26	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？
	27	心のバリアフリー	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？
	28	交通利便性	お住まいの地域は交通の便が良いと感じますか？
	29	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？
	30	周辺環境の快適さ★	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？
	31	持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると思いますか？
	32	生活環境の充実	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？
文化（文化・コミュニティ）	33	興味・関心事への取組	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？
	34	生涯学習環境の充実	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？
	35	地域への愛着	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？
	36	地域の人との交流の充実	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？
	37	地域に頼れる人がいる実感	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？
	38	文化的寛容性	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？
	39	充実した余暇・文化活動、地域の人のふれあいの実感	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？
安全・安心	40	防犯性★	お住まいの地域で、犯罪への不安を感じますか？
	41	交通安全性★	お住まいの地域で、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？
	42	生活安全性★	家庭や学校・職場などで、転倒、転落、落下物などの危険を感じますか？
	43	個人の備え	災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？
	44	災害時の絆・助け合い	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？
	45	防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？
	46	安全・安心の実感	お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？

I 分析で主に使用する3つの質問

今回のレポートでは、毎年度、区民アンケート調査で尋ねている幸福実感度に関連する問14から問16までの3つの質問を軸に、平成25年度から令和元年度までの7年間のデータ（12,788件）を用いて分析しました。


各質問の内容や問い番号、質問に対する回答方法は、毎年度同じであり、以下のとおり、問14の質問に対しては5段階評価で回答(※)、問15、16は自由記述で回答を求めています。

(※) 今回のレポートでは、各質問に対して、「わからない」を選択したり、「無回答」だったりした方の回答内容は除いて分析しています。

【3つの質問とその回答方法】

「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の調査票」より一部抜粋

問14 あなたは、幸せだと感じますか？あなたの実感に最も近いもの1つに○を付けてください。（○は1つだけ）

感ま じつ なた いく						わ か ら な い
1	2	3	4	5	0	

問15 あなたの幸せにとって重要だと思うことは何ですか？次の欄に自由にご記入ください。

_____ _____ _____

問16 あなたにとって不幸だと感じることや、生活をしていく上で不安だと感じるがありましたら、次の欄に自由にご記入ください。

_____ _____ _____

なお、以降の各質問文の表現方法については、分かりやすくするため、次のとおり表現します。

問14 ⇒ 幸福実感度

問15 ⇒ 幸せにとって重要だと思うこと

問16 ⇒ 不幸・不安だと感じること

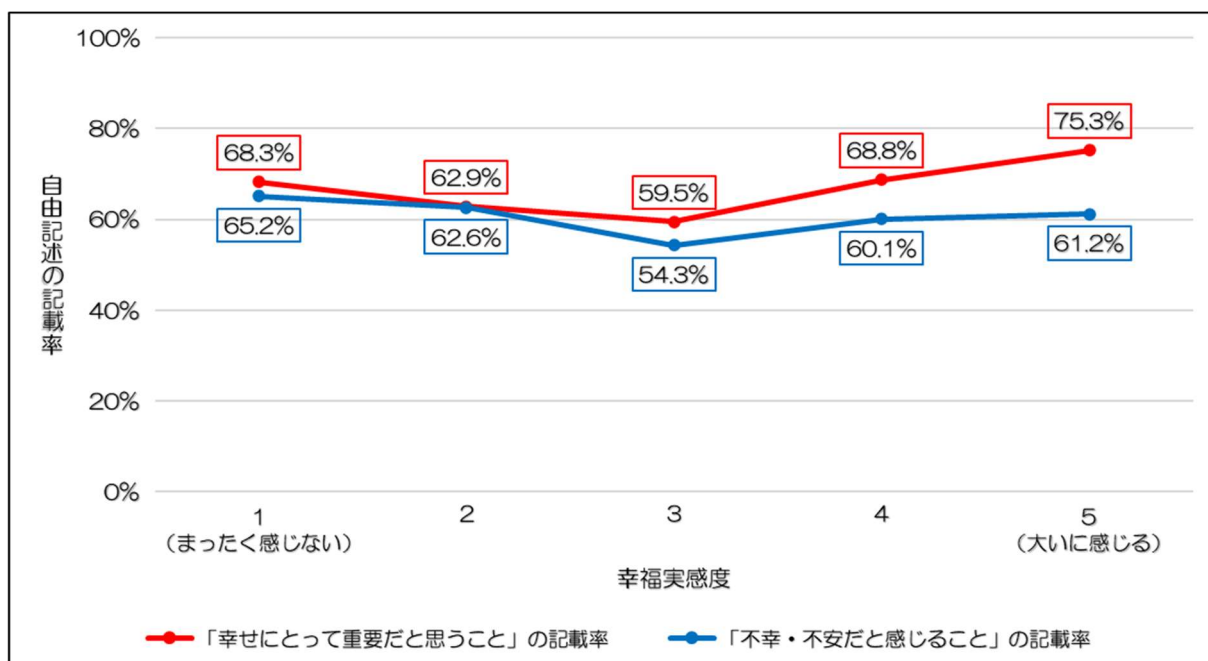
Ⅱ 幸福実感度と自由記述との関係性

(1) 「幸福実感度」の回答内容と、「自由記述」の記載率

区民アンケート調査では、Ⅰ章にあるとおり、幸福実感度を1から5までの「5段階評価」で回答いただき、更に幸せにとって重要だと思うことと不幸・不安だと感じることにについて自由に記述いただいています。

ここでは、5段階評価で尋ねている幸福実感度の回答内容と、自由記述で尋ねている幸せにとって重要だと思うことと、不幸・不安だと感じることの記載内容との間に、何か関係性はあるのか、両者の関係性について分析し、そこから見えてきた傾向について明らかにしていきます。

図表3 「幸福実感度」の回答内容と、「自由記述」の記載率との関係性



図表3は、幸福実感度について回答した方の中で、「幸せにとって重要だと思うこと」、「不幸・不安だと感じること」についてそれぞれ回答した方の割合を表しています。この表を見ると、①実感度ごとに記載率に差があること、②幸福実感度にかかわらず、不幸・不安だと感じることよりも幸せにとって重要だと思うことの方が、記載率が高いことが分かります。また、幸福実感が低い回答者（具体的には実感度1又は2と回答した方）の、「幸せにとって重要だと思うこと」と、「不幸・不安だと感じること」の記載率は同程度ですが、幸福実感が高い回答者（実感度4又は5と回答した方）では、「幸せにとって重要だと思うこと」の記載率の方が、「不幸・不安だと感じること」の記載率よりも高く、記載率に乖離があります。

(2) 本レポートでの自由記述の分析方法

自由記述の分析は、毎年度、荒川区が発行している「区民アンケート調査〈集計結果〉」にも掲載されています。具体的には、自由記述欄に記載された内容を性質別に13の項目（その他を含む）に分類し、その記載者数を掲載しています。本レポートでは、これまでの分析を更に細かく分析しました。分析の方法として、自由記述の13項目と、幸福実感度の関連を調べ、幸福実感が高い方がどのような項目に言及しているのか、反対に、幸福実感が低い方がどのような項目に言及しているのかを明らかにしました。

(3) 自由記述の回答を分類する基準となる13項目の紹介

「区民アンケート調査《集計結果》」において掲載した13項目のうち、幸せにとって重要だと思うことと、不幸・不安だと感じることに共通して分類されている11項目、幸せにとって重要だと思うことのみ分類されている2項目、不幸・不安だと感じることのみ分類されている2項目、どちらも合計13項目に分類されています。

例えば、幸せにとって重要だと思うことに「健康面、収入面が充実していること。」と記載されていた場合、「身体の健康・医療介護」項目に1カウント、「仕事・経済状況」項目に1カウントする、というような分類をします。自由記述の内容にどのような単語が記載されている場合に、どの項目に振り分けるのかを表したものが図表4になります。なお、ここでご紹介している単語は、各項目に振り分けられた語句の一例です。

図表4 自由記述に記載されている単語の分類について

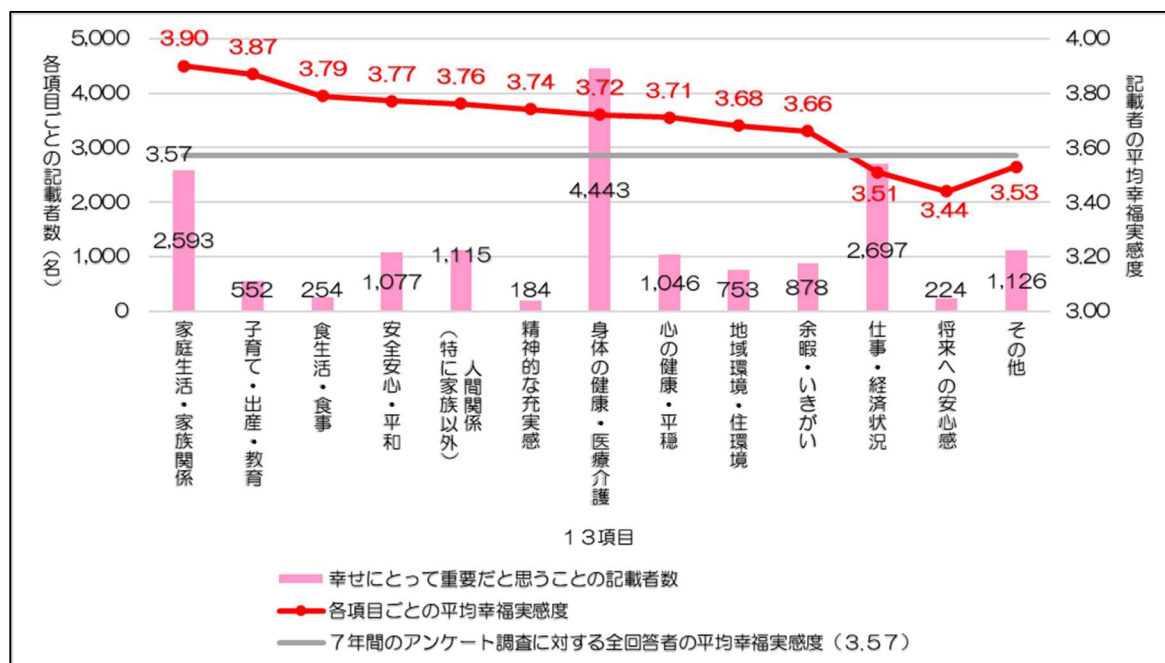
	項目名	「幸せにとって重要だと思うこと」や「不幸・不安だと感じること」に記入された単語例と文章例
幸せ及び不幸・不安共通の11項目	身体の健康・医療介護	単語例) 健康、福祉、心身、病気 文章例) 「毎日健康に過ごせること」「病気が良くなること」
	家庭生活・家族関係	単語例) 家族、夫婦、一家団欒 文章例) 「家族と過ごすこと」「両親の健康状態」
	仕事・経済状況	単語例) 仕事、収入、年金、経済 文章例) 「仕事の充実」「収入が減ること」
	人間関係(特に家族以外)	単語例) 友人、つながり、人間関係 文章例) 「友人が多いこと」「相談相手がいないこと」
	余暇・いきがい	単語例) 趣味、時間的ゆとり、余暇 文章例) 「釣りが出来ること」「余暇の時間がないこと」
	心の健康・平穏	単語例) 心のゆとり、心の安定 文章例) 「心が休まること」「ストレスがあること」
	安全安心・平和	単語例) 安全、防犯、治安、災害 文章例) 「安心して暮らせること」「災害が起きること」
	地域環境・住環境	単語例) 街並み、タバコ、生活環境 文章例) 「住む家があること」「道が狭く危ないこと」
	子育て・出産・教育	単語例) 子育て、教育、子どもの成長 文章例) 「子どもの成長を感じること」「子育てに不安を感じる」
	食生活・食事	単語例) 食事、衣食住 文章例) 「食生活に満足できること」「食事がとれないこと」
	その他	各分野に該当しない語句 文章例) 「生活に満足出来ること」「思うように動けないこと」
幸せのみの2項目	将来への安心感	単語例) 老後、将来への希望 文章例) 「将来の夢が叶うこと」
	精神的な充実感	単語例) 生活の充実 文章例) 「充実した毎日を送れること」
不幸・不安のみの2項目	不測の事態(将来への不安)	単語例) 老後、将来の見通し 文章例) 「将来、援助を受けられるかどうか不安である」
	孤独感・孤独死	単語例) 孤独死、孤立 文章例) 「一人身であること」

Ⅲ 自由記述の内容から見た平均幸福実感度

(1) 幸せにとって重要だと思うことに対する記載者数と平均幸福実感度

6ページの図表4を基に、「幸せにとって重要だと思うこと」に記載している内容をそれぞれ13項目に分類しました。これを用いて、各項目の記載者数及び、幸福実感度の平均値（以下、「平均幸福実感度」と表記します）、平成25年度から令和元年度までの7年間のアンケート調査に対する全回答者の平均幸福実感度「3.57」と比べたときの違いについて、図表5にまとめました。ここから、平均幸福実感度と幸せにとって重要だと思うこととの関係性から見てきた傾向について明らかにします。

図表5 「幸せにとって重要だと思うこと」について各項目ごとの記載者数と平均幸福実感度



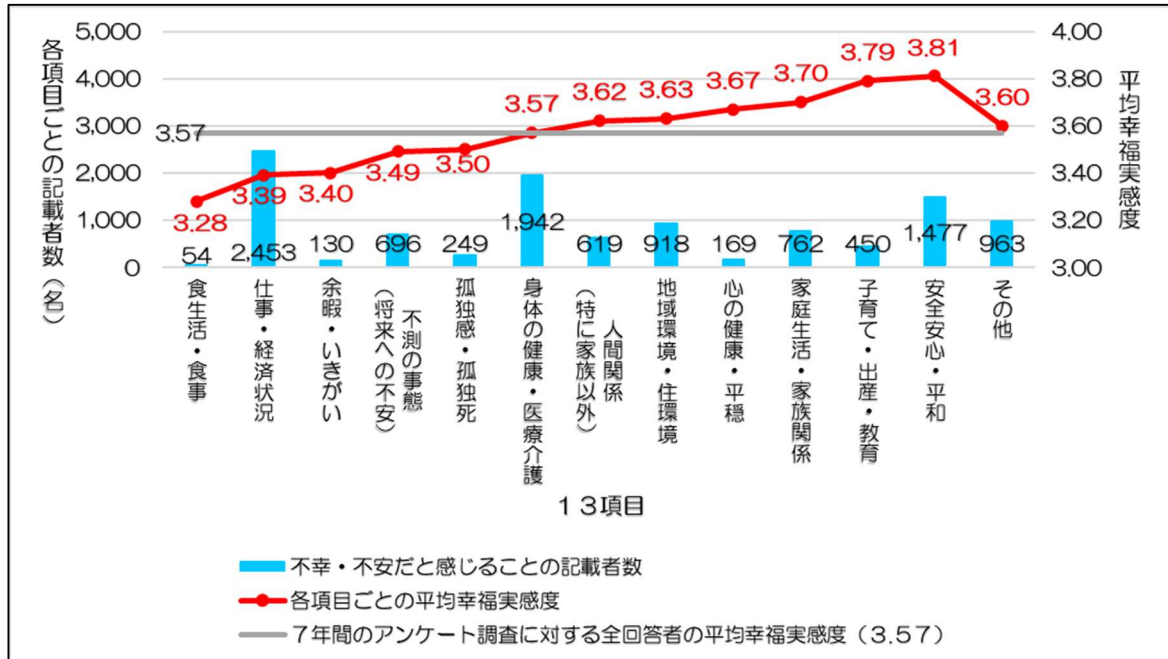
図表5では「その他」を除き、平均幸福実感度が高い順に13項目を並び替え、それぞれの項目ごとに記載者数も併せて表記しています。この表から、幸せにとって重要だと思うことについて記載した方が多い項目は、①「身体の健康・医療介護（4,443名）」、②「仕事・経済状況（2,697名）」、③「家庭生活・家族関係（2,593名）」であること、平均幸福実感度が高い項目は①「家庭生活・家族関係（3.90）」、②「子育て・出産・教育（3.87）」、③「食生活・食事（3.79）」であることが分かりました。また、「仕事・経済状況」、「将来への安心感」、「その他」以外の10項目の平均幸福実感度が、7年間のアンケート調査に対する全回答者の平均幸福実感度「3.57」を上回っていることも分かりました。

各項目の記載者数と平均幸福実感度に着目すると、例えば「仕事・経済状況」のように、幸せにとって重要だと思うことに記載した方が「2,697名」と多くても、平均幸福実感度は「3.51」と、他の項目と比べて低い傾向にあります。このことから、「『仕事・経済状況』に関する内容が、幸せにとって重要なことである」と考えている方は多数いるが、多くが幸福を実感しづらい状況下にある、という可能性が考えられます。逆に、「食生活・食事」のように、幸せにとって重要だと思うことに記載した方が「254名」と少なくても、平均幸福実感度は「3.79」と、他の項目と比べて高い傾向にある項目もあります。このように、幸せにとってどの項目を重要だと思うかによって平均幸福実感度が異なっており、多くの方が重要だと思っても、必ずしも幸福実感度が高いわけではないことなどが、本分析から分かります。

(2) 不幸・不安だと感じることに對する記載者数と平均幸福実感度

次に、6ページの図表4を基に、「不幸・不安だと感じることに記載している内容をそれぞれ13項目に分類しました。これを用いて、各項目の記載者数及び、平均幸福実感度、平成25年度から令和元年度までの7年間のアンケート調査に対する全回答者の平均幸福実感度「3.57」と比べたときの違いについて、図表6にまとめました。ここから、平均幸福実感度と不幸・不安だと感じることとの関係性から見てきた傾向について明らかにします。

図表6 「不幸・不安だと感じることに對する各項目ごとの記載者数と平均幸福実感度



図表6では、「その他」を除き、平均幸福実感度が低い順に13項目を並び替え、それぞれの項目ごとに記載者数も併せて表記しています。この表から、不幸・不安だと感じることに對して記載した方が多い項目は、①「仕事・経済状況(2,453名)」、②「身体・健康・医療介護(1,942名)」、③「安全安心・平和(1,477名)」であること、平均幸福実感度が低い項目は①「食生活・食事(3.28)」、②「仕事・経済状況(3.39)」、③「余暇・いきがい(3.40)」であることが分かりました。平均幸福実感度が低い「食生活・食事」、「仕事・経済状況」、「余暇・いきがい」の3項目と「不測の事態(将来への不安)」、「孤独感・孤独死」を合わせた5項目を除いた8項目は、7年間のアンケート調査に対する全回答者の平均幸福実感度「3.57」以上であることも分かりました。

各項目の記載者数と平均幸福実感度に着目すると、例えば「安全安心・平和」は、不幸・不安だと感じることに記載した方は「1,477名」と、相対的に記載者数が多く、平均幸福実感度も「3.81」と、他の項目と比べて高い傾向にあります。一方で、「仕事・経済状況」は、不幸・不安だと感じることに記載した方は「2,453名」と、記載者数が多いにもかかわらず、平均幸福実感度は「3.39」と、他の項目と比べて低い傾向にあります。

このように、記載者数や平均幸福実感度の関係性を明らかにすることで、仮に、「仕事・経済状況」のように多くの回答者が記載している項目の平均幸福実感度が低い場合、この項目について記載した方の幸福実感度がなぜ低いのか分析を今後更に進めていくことで、不幸・不安に関する要因や属性別の課題などを把握し、幸福実感向上を考えるヒントを得られるのではないかと考えます。

Ⅳ 幸福実感度別に見た、自由記述の分析

(1) 幸福実感が高い方と低い方の「幸せ」、「不幸・不安」

Ⅲ章では、幸せにとって重要だと思うことと不幸・不安だと感じることに、それぞれ自由記述の内容を軸に、各項目ごとの記載者数と平均幸福実感度について分析してきました。

本章では、幸福実感が高い方（実感度4又は5と回答した方）と、幸福実感が低い方（実感度1又は2と回答した方）で、「幸せにとって重要だと思うこと」と、「不幸・不安だと感じること」との記載内容に違いがあるか、幸福実感度を軸に自由記述の内容を分析していきます。

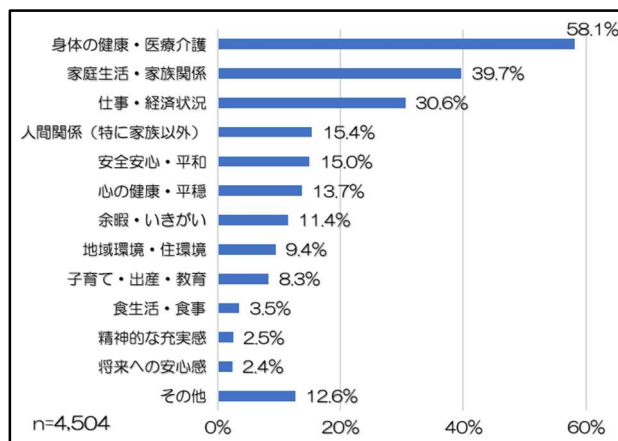
この分析を通して、幸福実感度によって、「幸せにとって重要だと思うこと」と「不幸・不安だと感じること」について何か違いはあるのか、その中でも特に、幸福実感が高い方が「幸せにとって重要だと思うこと」に記載した内容と、幸福実感が低い方が「不幸・不安だと感じること」に記載した内容に注目し、「幸せ」につながっている要因、「不幸・不安」につながっている要因はどこにある可能性があるのか、明らかにしていきます。

(2) 幸福実感が高い方の「幸せ」と「不幸・不安」

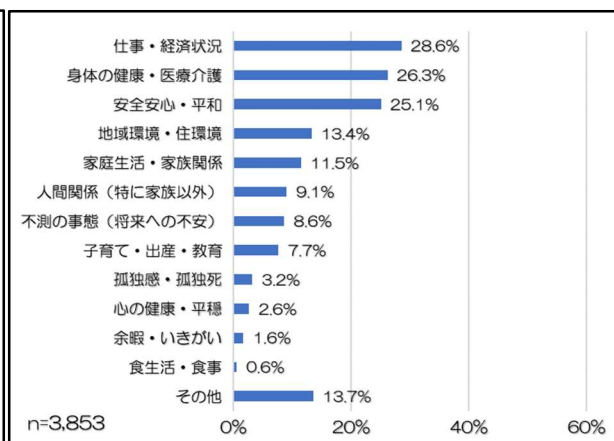
はじめに、幸福実感が高い方が「幸せにとって重要だと思うこと」に記載した内容と、「不幸・不安だと感じること」に記載した内容についてそれぞれ見ていきます。幸福実感が高い方が、幸せにとって重要だと思うことについて記載した内容のうち、記載割合の高い順に表記したものが図表7、不幸・不安だと感じることについて記載した内容のうち、記載割合の高い順に表記したものが図表8になります。

幸福実感が高い方の、「幸せにとって重要だと思うこと」と、「不幸・不安だと感じること」の記載割合

図表7 幸せにとって重要だと思うこと



図表8 不幸・不安だと感じること



図表7より、幸福実感が高い方が幸せにとって重要だと思うことについて記載した割合が高い項目は、①「身体の健康・医療介護」（58.1%）、②「家庭生活・家族関係（39.7%）」、③「仕事・経済状況（30.6%）」であることが分かりました。その一方で、図表8より、幸福実感が高い方が、不幸・不安だと感じることについて記載した割合が高い項目は①「仕事・経済状況（28.6%）」、②「身体の健康・医療介護（26.3%）」、③「安全安心・平和（25.1%）」であることが分かりました。このことから、幸福実感が高い方の2人に1人が、「身体の健康・医療

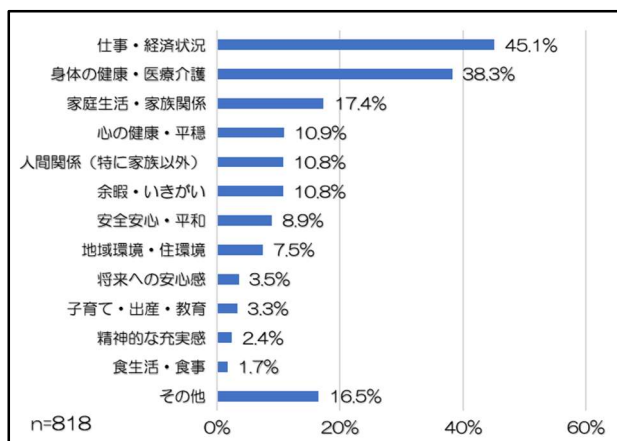
介護」が幸せにとって重要であると考えている傾向にあること、また、幸福実感が高い方の4人に1人が「仕事・経済状況」に不幸・不安を感じている傾向にあることがうかがえます。

(3) 幸福実感が低い方の「幸せ」と「不幸・不安」

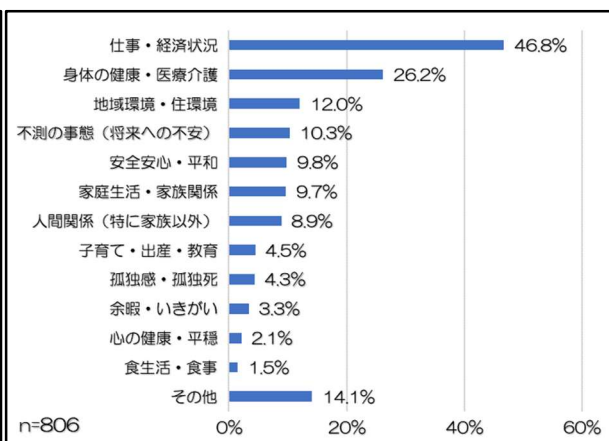
次に、幸福実感が低い方が、「幸せにとって重要だと思うこと」に記載した内容と、「不幸・不安だと感じること」に記載した内容についてそれぞれ見ていきます。幸福実感が低い方が、幸せにとって重要だと思うことについて記載した内容のうち、記載割合の高い順に表記したものが図表9、不幸・不安だと感じることについて記載した内容のうち、記載割合の高い順に表記したものが図表10になります。

幸福実感が低い方の、「幸せにとって重要だと思うこと」と、「不幸・不安だと感じること」の記載割合

図表9 幸せにとって重要だと思うこと



図表10 不幸・不安だと感じること



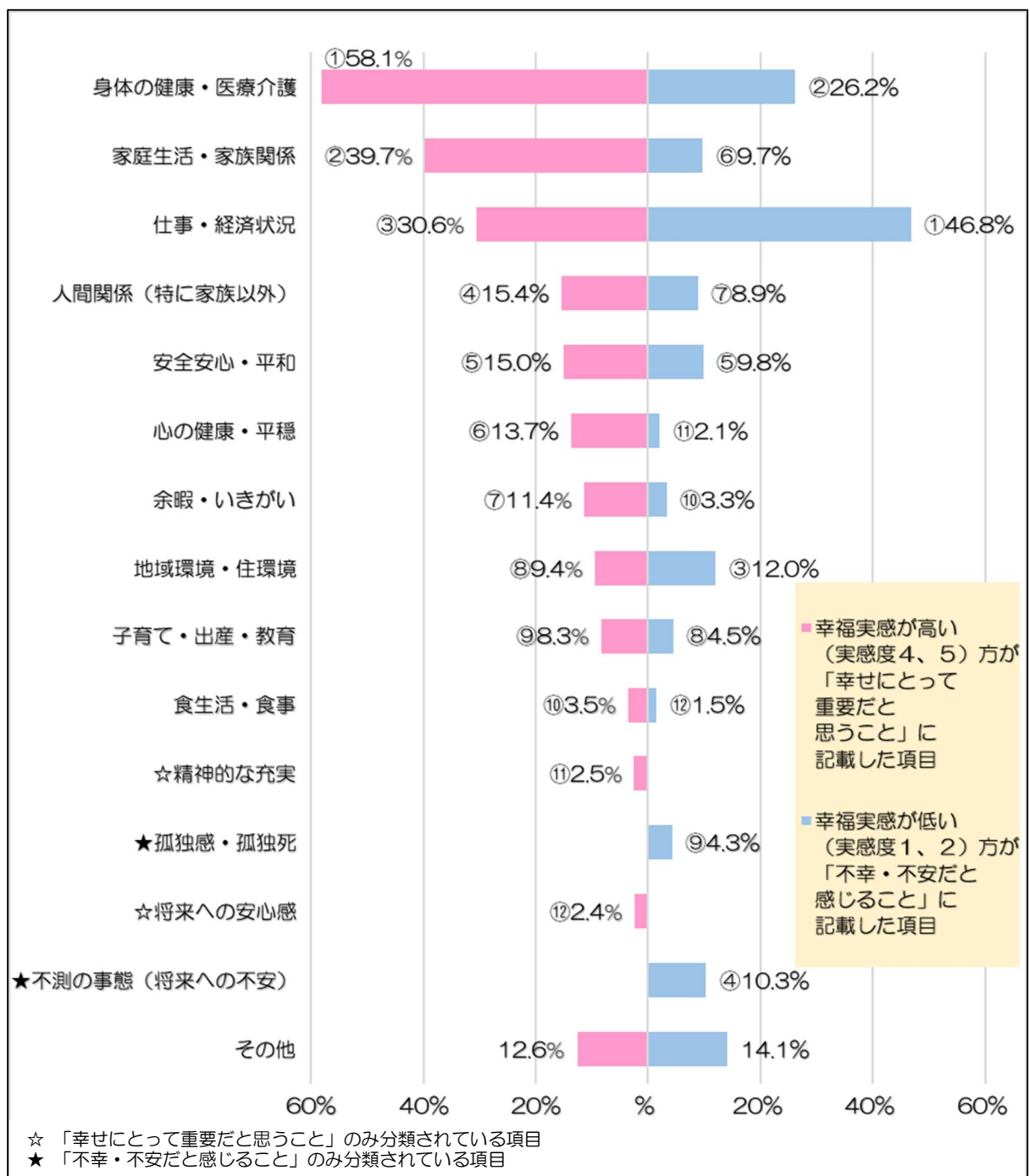
図表9より、幸福実感が低い方が、幸せにとって重要だと思うことについて記載した割合が高い項目は①「仕事・経済状況（45.1%）」、②「身体の健康・医療介護（38.3%）」、③「家庭生活・家族関係（17.4%）」であることが分かりました。その一方で、図表10より、幸福実感が低い方が、不幸・不安だと感じることについて記載した割合が高い項目は①「仕事・経済状況（46.8%）」、②「身体の健康・医療介護（26.2%）」、③「地域環境・住環境（12.0%）」であることが分かりました。このことから幸福実感が低い方は、「幸せにとって重要だと思うこと」、「不幸・不安だと感じること」に対して、どちらも「仕事・経済状況」について最も多く記載している傾向にあると考えられます。特に不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」について記載した方は他の項目と比べて突出して多いことがうかがえます。

(4) 幸福実感度と「幸せ」、「不幸・不安」から見えてきたこと

図表7と図表8では「幸福実感が高い方」の「幸せにとって重要だと思うこと」と「不幸・不安だと感じること」、図表9と図表10では「幸福実感が低い方」の「幸せにとって重要だと思うこと」と「不幸・不安だと感じること」について見てきました。では、幸福実感が高い方が考える、幸せにとって重要だと思うことを表記した図表7と、幸福実感が低い方が考える、不幸・不安だと感じることを表記した図表10を比較すると、どのような点が見えてくるのでしょうか。これを分析し、幸福実感が高い方が、幸せにとって重要だと思うことにどのようなことを記載したのか、幸福実感が低い方が、不幸・不安だと感じることにどのようなことを記載したのかを明らかにしていきます。

図表7と図表10を再掲し、それぞれの図表をひとつにまとめたものが図表11になります。

図表11 幸福実感が高い（実感度4、5）方が幸せにとって重要だと思うことに記載した項目と幸福実感が低い（実感度1、2）方が不幸・不安だと感じることに記載した項目



図表 1 1 を見ると、幸福実感が高い方が、幸せにとって重要だと思うこと（ピンク色で表記）に記載した割合が高い項目は①「身体の健康・医療介護（58.1%）」、②「家庭生活・家族関係（39.7%）」、③「仕事・経済状況（30.6%）」であることが分かりました。その一方で、幸福実感が低い方が、「不幸・不安だと感じること（水色で表記）」に記載した割合が高い項目は、①「仕事・経済状況（46.8%）」、②「身体の健康・医療介護（26.2%）」、③「地域環境・住環境（12.0%）」であることが分かりました。このことから、幸福実感が高い方が幸せにとって重要だと思うこと、また、幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じることも、「身体の健康・医療介護」、「仕事・経済状況」について記載した方の割合が高い傾向にあることが分かります。その一方で、幸福実感が高い方で、幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」について記載した方の割合は、他の項目と比べて高い傾向にあります。幸福実感が低い方で、不幸・不安だと感じることに「家庭生活・家族関係」について記載した方の割合は、他の項目と比べて高い傾向にあるとはいえません。また、幸福実感が高い方で、幸せにとって重要だと思うことに「地域環境・住環境」について記載した方の割合は、他の項目と比べてそれほど高くはありませんが、幸福実感が低い方で不幸・不安だと感じることに「地域環境・住環境」について記載した方の割合は、他の項目と比べて高い傾向にあることが分かります。これらの傾向に「幸せ」や「不幸・不安」の要因が隠されている可能性があります。

V 3つの分析結果を踏まえて

これまで、項目ごとの記載者数の多さ、項目ごとの平均幸福実感度、幸福実感が高い方と低い方の記述内容の違いという3つの分析結果から、幸福実感度と自由記述の関係性について述べてきました。では、実際にどのような方がどの項目に「幸福」を、どのような方がどの項目に「不幸・不安」を感じている傾向にあるのか、V～VII章にかけてこれらを明らかにしていきます。まず、どの項目に「幸福」、あるいは「不幸・不安」を感じる傾向が強いのか、という点について明らかにしていきます。

(1) 幸福実感度と自由記述の関係性から見た「幸せ」と「不幸・不安」

ここまでの分析結果をふまえ、①幸せにとって重要だと思うことについて記載した方が多かった項目、②幸せにとって重要だと思うことについて記載した方の平均幸福実感度が高い項目、③幸福実感が高い方が、幸せにとって重要だと思うことについて多く記載した項目をそれぞれ上位3項目まで抽出し、まとめたものが図表 1 2 となります。

図表 1 2 「幸せにとって重要だと思うこと」に関する各事項と上位3分野

各事項	各項目ごとの順位		
	1位	2位	3位
①記載者数が多い項目	身体の健康・医療介護 記載者数：4,443名	仕事・経済状況 記載者数：2,697名	家庭生活・家族関係 記載者数：2,593名
②平均幸福実感度が高い項目	家庭生活・家族関係 〈3.90〉	子育て・出産・教育 〈3.87〉	食生活・食事 〈3.79〉
③幸福実感が高い方が、 幸せにとって重要だと思うことについて 多く記載した項目	身体の健康・医療介護 記載割合：58.1%	家庭生活・家族関係 記載割合：39.7%	仕事・経済状況 記載割合：30.6%

その一方で、①不幸・不安だと感じることにについて記載した方が多かった項目、②不幸・不安だと感じることにについて記載した方の平均幸福実感が低い項目、③幸福実感が低い方が、幸せにとって不幸・不安だと感じることにについて多く記載した項目をそれぞれ上位3項目（②については平均幸福実感が低い順に上位3項目）まで抽出し、まとめたものが図表13となります。

図表13 「不幸・不安だと感じることに」に関する各事項と上位3項目

各事項	各項目ごとの順位		
	1位	2位	3位
①記載者数が多い項目	仕事・経済状況	身体の健康・医療介護	安全安心・平和
	記載者数：2,453名	記載者数：1,942名	記載者数：1,477名
②平均幸福実感が低い項目	食生活・食事	仕事・経済状況	余暇・いきがい
	< 3.28 >	< 3.39 >	< 3.40 >
③幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じることにについて多く記載した項目	仕事・経済状況	身体の健康・医療介護	地域環境・住環境
	記載割合：46.8%	記載割合：26.2%	記載割合：12.0%

自由記述から「幸福度」について分析する方法は数多くありますが、図表12、図表13の結果を基に以下のとおり分析を行いました。

図表12において、①幸せにとって重要だと思うことにについて記載者数が多いこと、②平均幸福実感が高いこと、③幸福実感が高い方が、幸せにとって重要だと思うことにについて多く記載していること、の3つ全てを満たしている項目は、「幸福」に感じる傾向が強い項目なのではないかと考えられます。反対に、図表13において、①不幸・不安だと感じることにについて記載者が多いこと、②平均幸福実感が低いこと、③幸福実感が低い方が、不幸・不安だと感じることにについて多く記載していること、の3つ全てを満たしている項目は、「不幸・不安」に感じる傾向が強い項目なのではないかと考えられます。

その結果、「幸福」に感じる傾向が強い項目は「家庭生活・家族関係」、「不幸・不安」だと感じる傾向が強い項目は、「仕事・経済状況」であることが分かりました。

では、次に、どのような方が幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」を、どのような方が不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」を記載しているのでしょうか。これを明らかにするために、幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」について記載した方の属性、不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」について記載した方の属性について次章以降で見えていきます。区民アンケート調査の「属性」は次のとおりです。

(2) 属性について

平成25年度から令和元年度までの7年間で行われた区民アンケート調査では、回答者自身に関すること（属性）についても尋ねています。尋ねている属性については以下のとおりです。

【尋ねている属性】

○性別	○年齢	○居住地域	○居住年数
○居住形態	○職業	○平均就業時間	○求職状況
○配偶者の有無	○配偶者の職業	○世帯年収	○家族構成
○子どもの年齢	○外国籍の方の 通算滞在年数		

(3) 自由記述と属性の関係性について見ていく際の注意点

次章以降の分析では、性別、年齢、居住地域など、属性ごとに分析しています。しかし、各属性同士の関係を明らかにしたものではありません。例えば、性別では「女性」が多い傾向にあり、年齢では「30～34歳」が多い傾向にあるということが明らかになったとしても、「30～34歳の女性」が多い傾向にあるということではありません。

VI 「幸せ」に関して「家庭生活・家族関係」について 記載した方の属性

ここからは、幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」について記載した方の属性について見ていきます。V章の(2)に記載している属性ごとに、幸せにとって重要だと思うことについて記載した方全体に対して、どれだけの方が「家庭生活・家族関係」について記載したのかを割合で算出し、属性ごとに比較しました。例えば、幸せにとって重要だと思うことについて記載した「35～39歳」の方の中で、「家庭生活・家族関係」について記載した「35～39歳」の方の割合は44.7%であり、それを他の年齢の方の割合と比較することで、幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」について記載した方は、どの年齢の方に多い傾向があるのか、年齢が上がるにつれて記載割合はどのように変化していくのか等、様々な視点から比較、分析しました。ここから、幸福に感じる傾向が強い「家庭生活・家族関係」を、幸せにとって重要だと思うことに記載した方は、具体的にどのような方に多い傾向にあるのか、明らかにしていきます。

各属性ごとに、幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」について記載した方の傾向をまとめたものが図表14になります。なお、各属性の記載割合については、20ページにある巻末資料の(1)に掲載していますのでご参照ください。また、V章の(3)で述べたように、今回の分析では各属性同士の関係性は明らかになっていません。

図表 1 4 幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」を記載した方の傾向

属性	傾向
性別	「女性」の割合が高い。
年齢	「35～39歳」の割合が高い。
居住地域	居住地域による大きな差はない。
居住年数	「5～9年」の割合が高い。
居住形態	「持ち家（集合住宅）」の割合が高い。
職業	「家族従業者」、「専業主婦・専業主夫」の割合が高い。
平均就業時間	「10～11時間」の割合は、他と比べて少し低いが、それ以外で、平均就業時間による大きな差はない。
求職状況	求職の状況による大きな差はない。
配偶者の有無	「現在、配偶者がいる」割合が高い。
配偶者の職業	「正規の職員、従業員」の割合が高い。
世帯年収	世帯年収が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向にある。
家族構成	「親・子・孫（三世代家族）」の割合が高い。
子どもの年齢	「0～2歳」の子どもの割合が高い。
外国籍の方の通算滞在年数	「10年以上」の割合が高い。

図表 1 4や20ページにある巻末資料の（1）より、幸せにとって重要だと思うことに「家庭生活・家族関係」について記載した方の職業を見ると、「家族従業者」、「専業主婦・専業主夫」の割合が高いことから、実際に家族で仕事をしている方や、家庭生活を送っている方に多い傾向にあるのではないかと考えられます。また、「0～2歳」の子どもの割合が高いことから、乳幼児がいる方にも多い傾向にあるものと考えられます。

Ⅶ 「不幸・不安」に関して「仕事・経済状況」 について記載した方の属性

次に、不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」について記載した方の属性について見ていきます。Ⅵ章と同様、各属性ごとに、不幸・不安だと感じることに記載した方全体に対して、どれだけの方が「仕事・経済状況」について記載したのかを割合で算出し、属性ごとに比較しました。ここから、不幸・不安を感じる傾向が強い「仕事・経済状況」を、不幸・不安だと感じることに記載した方は、具体的にどのような方に多い傾向にあるのか、明らかにしていきます。

各属性ごとに、不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」について記載した方の傾向をまとめたものが図表 1 5になります。なお、各属性の記載割合については、22ページにある巻末資料の（2）に掲載していますのでご参照ください。また、Ⅴ章の（3）で述べたように、今回の分析では各属性同士の関係性は明らかになっていません。

図表 15 不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」を記載した方の属性とその傾向

属性	割合の傾向
性別	大きな差はない。
年齢	「50～54歳」の割合が高い。
居住地域	一部を除き、居住地域による大きな差はない。
居住年数	「15～19年」の割合が高い。
居住形態	借家（一戸建て）の割合が高い。
職業	「労働者派遣事業所の派遣社員」「パート・アルバイトなど」の割合が高い。
平均就業時間	「12時間以上」の割合が高い。
求職状況	「仕事を探している」の割合が他の項目と比べて非常に高い。
配偶者の有無	配偶者の有無による大きな差はない。
配偶者の職業	「パート・アルバイトなど」の割合が高い。
世帯年収	「200万円以上400万円未満」の割合を境に、世帯年収が増加するにつれて、割合が減少している傾向にあり、世帯年収が「1,000万円以上」の割合が最も低い。
家族構成	家族構成による大きな変化は見られない。
子どもの年齢	「3～5歳」から「18～19歳」にかけて、子どもの年齢が上がるとともに割合が増加している。
外国籍の方の通算滞在年数	「1～2年」、「5～9年」の割合が高い。

図表 15 や 22 ページにある巻末資料の (2) より、不幸・不安だと感じることに仕事・経済状況について記載した方の職業を見ると、「労働者派遣事業所の派遣社員」、「パート・アルバイトなど」の割合が高いことが分かります。配偶者の職業についても「パート・アルバイトなど」の割合が高い傾向にあります。また、平均就業時間を見ると、「12時間以上」の割合が高く、求職状況を見ると、「仕事を探している」の割合が他の項目と比べて非常に高いことが分かります。

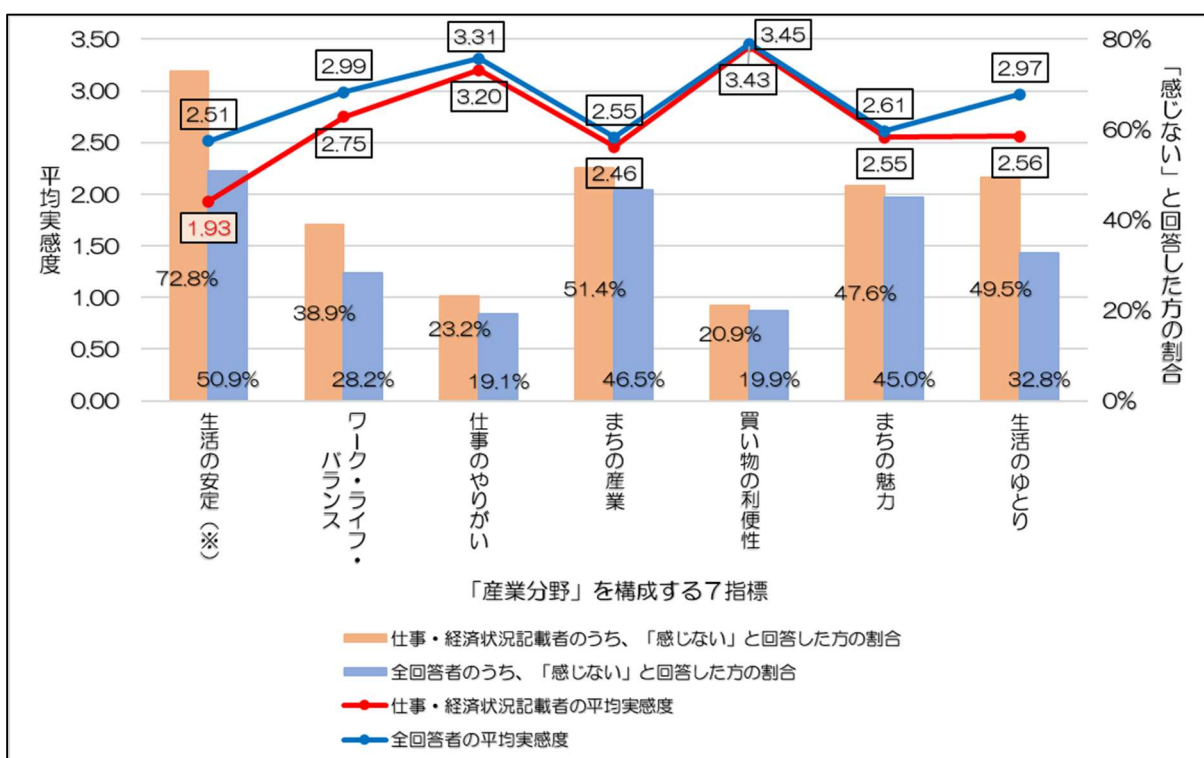
【コラム】 不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」を記載した方の「産業分野」指標の実感度

冒頭で述べたとおり、GAH 指標には6つの分野があり、6分野はそれぞれ7～9個の指標で構成されています。区民アンケート調査では、各指標ごとの質問文により実感度を尋ねています。6分野の一つである「産業分野」を構成する7つの指標の実感度と、不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」について記載した方との間に、どのような関係があるのか、このコラムでは両者の関係性について明らかにしていきます。「産業分野」を構成する7つの指標とその質問文の内容は3ページの図表 2 に記載しているとおりです。

区民アンケート調査では、これらの質問文に対して「1（まったく感じない）」から「5（大いに感じる）」までの5段階評価で回答を求めています。不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」について記載した方は、この7つの質問に対してどのような回答をしたのでしょうか。それを示したものが図表 16 のグラフになります。なお、ここでは分かりやすくするために以下のとおりに表記します。

- ・ 仕事・経済状況記載者 ⇒ 不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」を記載した方
- ・ 全回答者 ⇒ 平成25年度から令和元年度までの区民アンケート調査に対して回答した全ての方

図表 16 「産業分野」の指標の設問に対する平均実感度



(※)「生活の安定」指標では、「生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか。」というように、マイナスの実感度を尋ねています。他の指標と同様に、プラスの実感度を尋ねた時の回答結果に尺度を合わせるために、実感度「1」を「5」、「2」を「4」、「4」を「2」、「5」を「1」というように、回答結果を逆換算して計算、グラフ化しています。

図表 16 は、仕事・経済状況記載者（薄い赤色の棒グラフ）と、全回答者（薄い青色の棒グラフ）が、それぞれ産業分野の7つの質問に対して「感じない（実感度1又は2）」と回答した方が、回答者全体のうちどの程度いたのかという点について、割合で表記しています。また、仕事・経済状況記載者（赤色の折れ線グラフ）と、全回答者（青色の折れ線グラフ）が、それぞれ産業分野の7つの質問に対して回答した実感度の平均（平均実感度）を表しています。これを見ると、特に「生活の安定」指標と「生活のゆとり」指標において、平均実感度を表す赤線と青線の差が大きいことがわかります。両者の差が一番大きい「生活の安定」指標に着目すると、仕事・経済状況記載者の、「生活の安定」指標に関する平均実感度が「1.93」と「2」を下回っています。更に細かく回答内容を見ると、仕事・経済状況記載者が「生活の安定」指標について「感じない（実感度1又は2）」と回答した方は、仕事・経済状況記載者のうちの72.8%を占めていることがわかります。全回答者の、「生活の安定」指標について「感じない」と回答した方は全回答者のうちの50.9%を占めていることから、仕事・経済状況記載者と全回答者の割合の差は「21.9ポイント」あり、産業分野の7指標の中で最も差が大きいことがわかりました。

このことから、直接的な因果関係は不明なものの、「生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じ、その旨を区民アンケート調査の中の『不幸・不安だと感じる』に記載した、という方が多くいた可能性があります。

VIII まとめ

今回のレポートでは、自由記述の回答内容と幸福実感度から見えてきた傾向について、分析を進めてきました。これにより、自由記述の内容（項目）によって、幸福度に関して様々な特徴があることが分かりました。

例えば「食生活・食事」について、幸せにとって重要だと思うことに記載した方の平均幸福実感度は「3.79」と高い傾向にあるにもかかわらず、「食生活・食事」について、不幸・不安だと感じることに記載した方の平均幸福実感度は「3.28」と他の項目の中で最も低い傾向にあることが分かります。どちらも「食生活・食事」を記載した方の人数が少ないため、この傾向を読み解く際には注意が必要ですが、この結果から、「食生活・食事」は、幸せだと感じるために必要な要素であると同時に、この項目に不幸・不安を感じている場合、幸せだと感じづらい状況下にある可能性が考えられます。

このように、自由記述の内容（項目）と幸福実感度を組み合わせて分析することで、様々な傾向や特徴が明らかになるものと考えられます。

これに加えて、「幸福実感が高い方が幸せにとって重要だと思うこと」と、「幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じること」について、記載内容に差はあるのか、比較しました。その結果、「身体の健康・医療介護」や「仕事・経済状況」は、幸福実感が高い方が幸せにとって重要だと思うこと、幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じること、ともに多く記載されていることが分かりました。その一方で、「家庭生活・家族関係」は、幸福実感が高い方が幸せにとって重要だと思うことに対して多く記載されていますが、幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じることに対して多く記載されているとは言えないこと、「地域環境・住環境」は、幸福実感が高い方が幸せにとって重要だと思うことに多く記載されているとは言えないが、幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じることに多く記載されていることなども分かりました。

このように、幸福実感度によって、幸せにとって重要だと思うことや不幸・不安だと感じることの内容も変わってくるのではないのでしょうか。

また、幸福と感じる傾向が強い項目として「家庭生活・家族関係」、不幸・不安だと感じる傾向が強い項目として「仕事・経済状況」について、属性ごとに取り上げることで、どのような方々が「家庭生活・家族関係」に幸福を、「仕事・経済状況」に不幸、不安を感じる傾向があるのかを具体的に明らかにしました。

各項目と属性を見ることで様々な分析をすることができるものと考えます。例えば、不幸・不安だと感じることに「仕事・経済状況」を記載した方は他の項目の中で一番多いですが、平均幸福実感度は「3.39」と、7年間の区民アンケート調査に対する全回答者の平均幸福実感度「3.57」を下回っています。属性を調べると、自由記述に「仕事・経済状況」について記載した方は「平均就業時間が12時間以上」と回答した方の割合が高くなっており、また、求職状況について「仕事を探している」と回答した方の割合が高くなっている、などの特徴があることが分かりました。これらの特徴が平均幸福実感度に直接影響を与えているかどうかは不明ですが、一要因になっている可能性があります。更に、同じ「仕事・経済状況」においても、幸せにとって重要だと思うことと、不幸・不安を感じることで具体的にどのような語句が記載されているか、

それらの語句は「幸せ」、「不幸・不安」でどのような違いがあるのか等、記述されている語句を分析することで、より深く自由記述について分析できるのではないかと考えています。

以上のように、自由記述に記載されている内容ごとに、それぞれ特徴や傾向があることがわかりました。

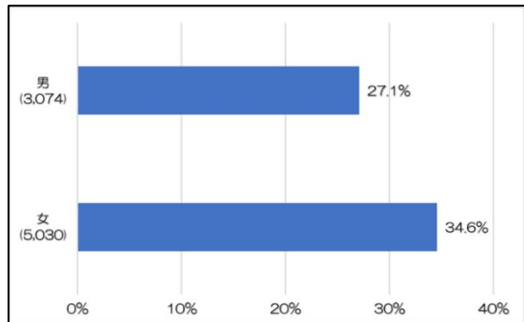
区民アンケート調査の結果について、各指標の実感度や重要度を分析していただくことに加えて自由記述についても着目することで、更に細かく区民の「幸福」、「不幸・不安」の現状を把握するとともに、幸福実感度が高い方が、幸せにとって重要だと思うことについて記載した内容を分析することで、回答者の幸福実感度がなぜ高いのか、その要因の一端を分析することができるのではないかと考えています。また、幸福実感度が低い方が、不幸・不安だと感じることにについて記載した内容を調べることで、回答者の幸福実感度がなぜ低いのか、その要因の一端を分析することができるのではないかと考えています。

今回は、区民アンケート調査の自由記述と幸福実感度の関係性について、分析しました。自由記述には、回答者の思いや考え等について記述されています。今後は、その内容について詳細に分析したり、自由記述と選択肢回答を併せて考察したりするなど、更に深く分析し、その結果を多くの皆様と共有することで、区民の幸福度向上のために何ができるのか、考えていきたいと思っております。

巻末資料

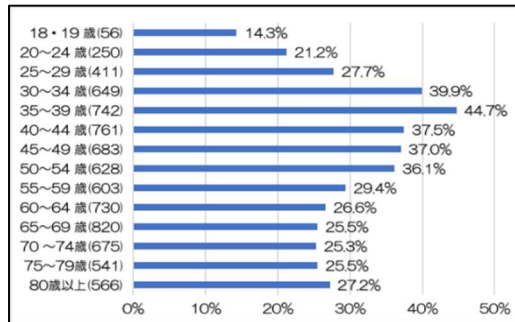
(1) 「幸せ」に関して「家庭生活・家族関係」を記載した方の属性

【性別】



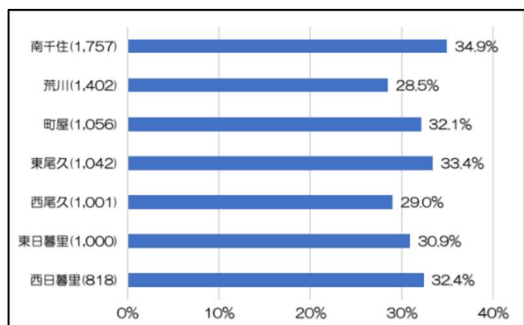
「女性」の割合が高い。

【年齢】



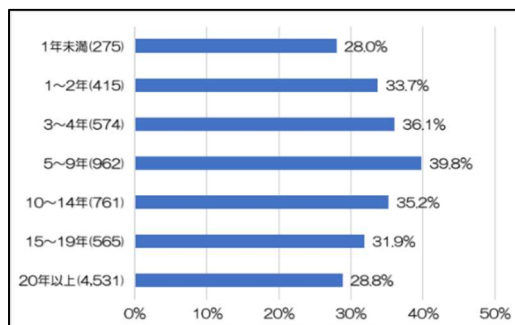
「35～39歳」の割合が高い。

【居住地域】



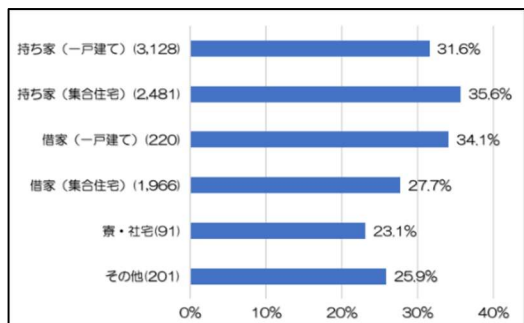
居住地域による大きな差はない。

【居住年数】



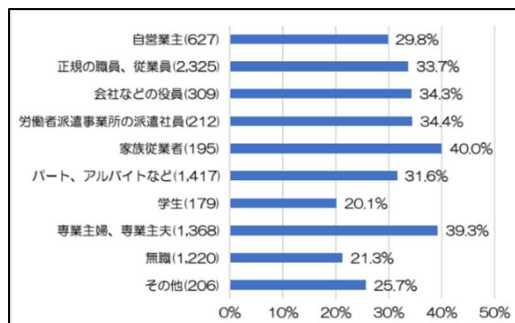
「5～9年」の割合が高い。

【居住形態】



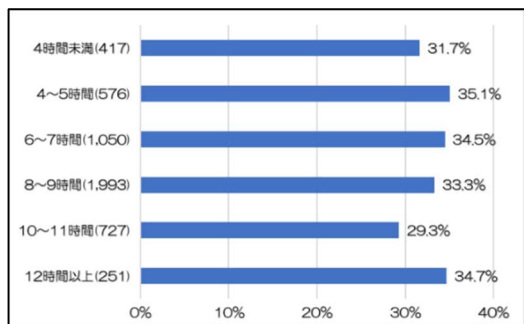
「持ち家（集合住宅）」の割合が高い。

【職業】



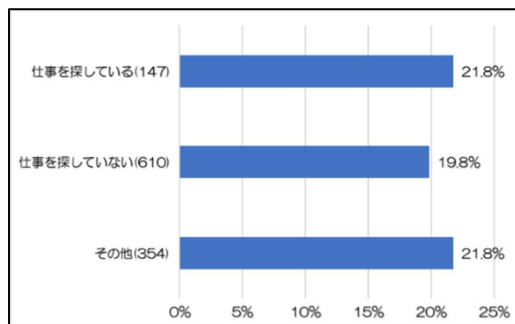
「家族従業者」、「専業主婦・専業主夫」の割合が高い。

【平均就業時間】



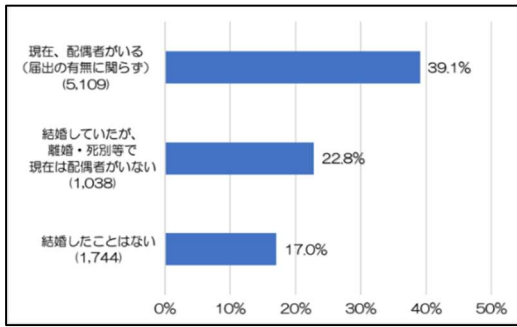
「10～11時間」の割合は他と比べて割合が少し低いが、それ以外で、平均就業時間による大きな差はない。

【求職状況】



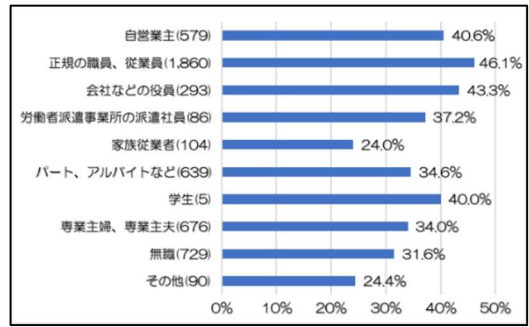
求職の状況による大きな差はない。

【配偶者の有無】



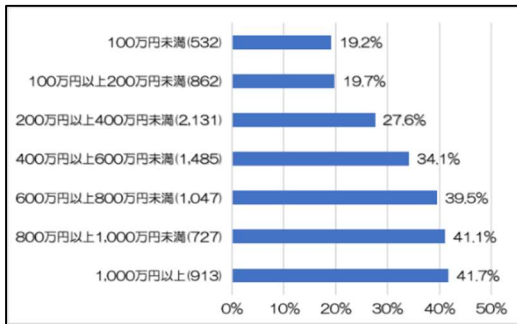
「現在、配偶者がいる」割合が高い。

【配偶者の職業】



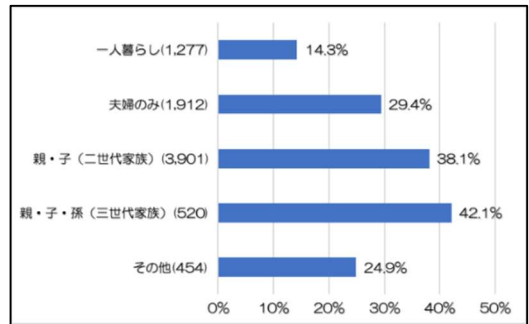
「正規の職員、従業員」の割合が高い。

【世帯年収】



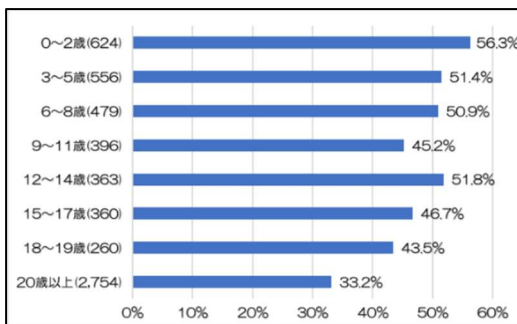
世帯年収が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。

【家族構成】



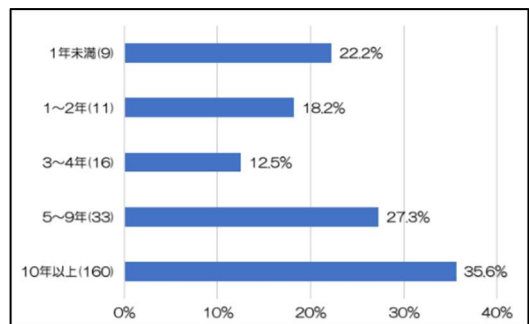
「親・子・孫(三世世代家族)」の割合が高い。

【子どもの年齢】



「0~2歳」の子どもがいる割合が高い。

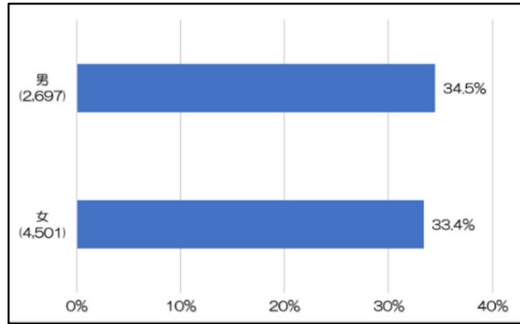
【外国籍の方の通算滞在年数】



「10年以上」の割合が高い。

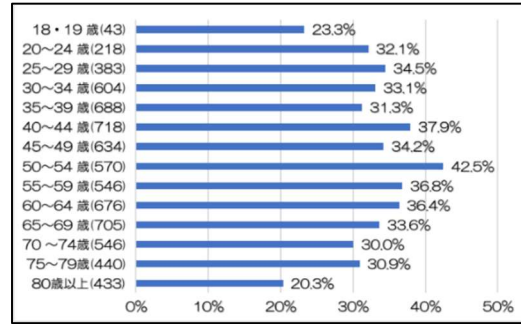
(2) 「不幸・不安」に関して「仕事・経済状況」を記載した方の属性

【性別】



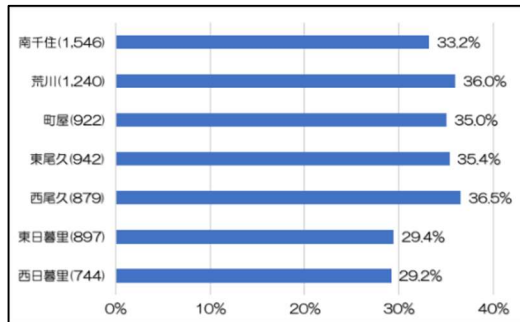
大きな差はない。

【年齢】



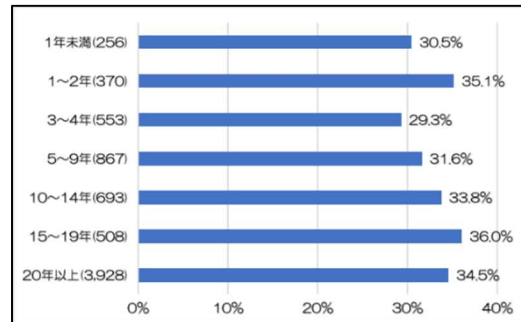
「50~54歳」の割合が高い。

【居住地】



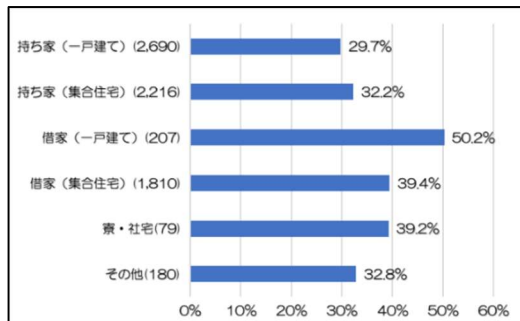
一部を除き、居住地による大きな差はない。

【居住年数】



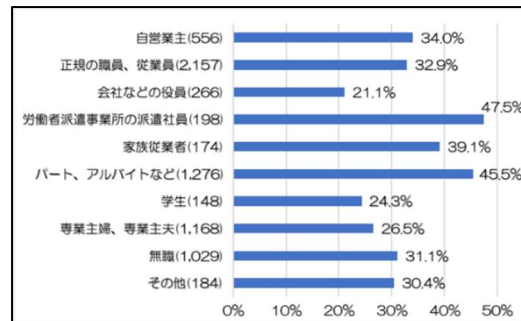
「15~19年」の割合が高い。

【居住形態】



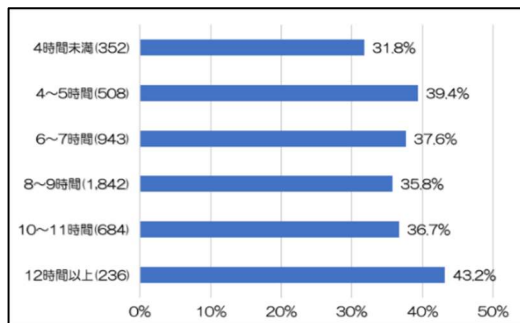
「借家（一戸建て）」の割合が高い。

【職業】



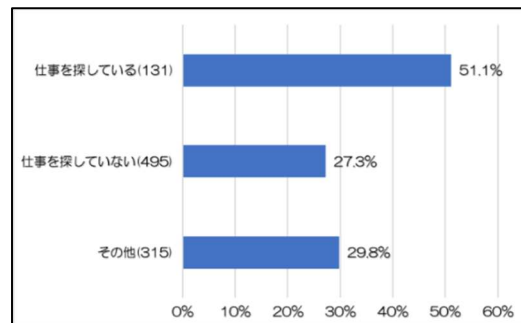
「労働者派遣事業所の派遣社員」、「パート・アルバイトなど」の割合が高い。

【平均就業時間】



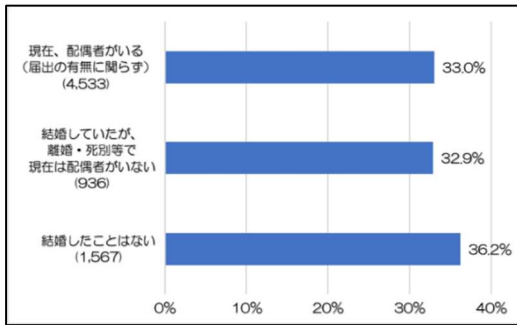
「12時間以上」の割合が高い。

【求職状況】



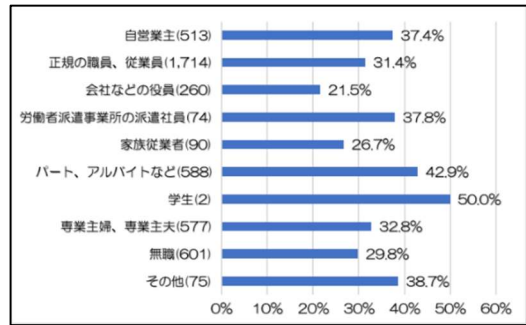
「仕事を探している」の割合が他の項目と比べて非常に高い。

【配偶者の有無】



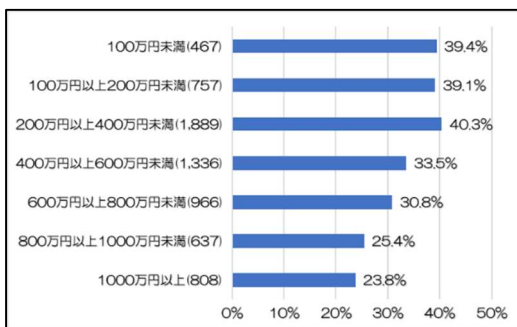
配偶者の有無による大きな差はない。

【配偶者の職業】



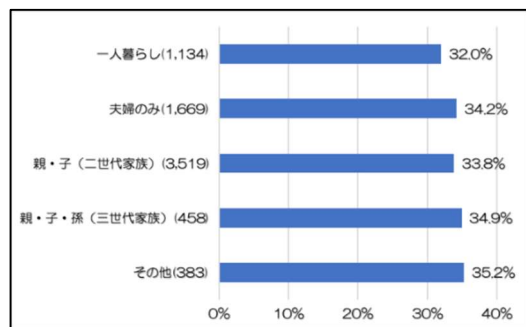
「パート・アルバイトなど」の割合が高い。
※「学生」の割合も高いが、母数が少ないため、割愛する。

【世帯年収】



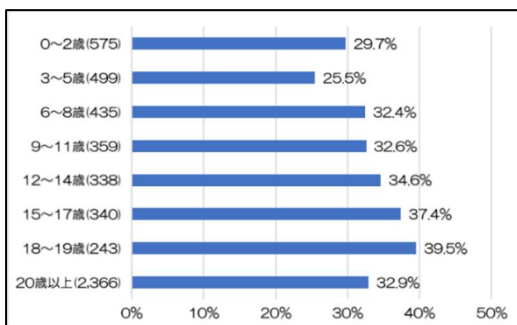
「200万円以上400万円未満」の割合を境に、世帯年収が増加するにつれて、割合が減少している傾向にあり、世帯年収が「1,000万円以上」の割合が最も低い。

【家族構成】



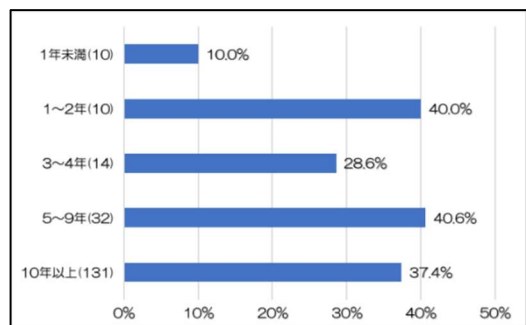
家族構成による大きな変化は見られない。

【子どもの年齢】



「3~5歳」から「18~19歳」にかけて、子どもの年齢が上がるとともに割合が増加している。

【外国籍の方の通算滞在年数】



「1~2年」、「5~9年」の割合が高い。

(3) 自由記述と幸福実感度との関係性に関する早見表

今回のレポートで明らかになった自由記述と幸福実感度との関係性について、「その他」を除き、自由記述の内容（項目）ごとにまとめました。この表では①項目を記載した方の人数、②項目を記載した方の平均幸福実感度、③幸福実感が高い方（実感度4又は5と回答した方）が、それぞれの自由記述欄に記載された内容全体のうち、項目がどの程度記載されていたのか、その割合を、④幸福実感が低い方（実感度1又は2と回答した方）が、それぞれの自由記述欄に記載された内容全体のうち、項目がどの程度記載されていたのか、その割合を示しており、①～④いずれも、幸せにとって重要だと思うこと、不幸・不安だと感じることにそれぞれ表記しています。また、表の中でそれぞれの項目において、項目ごとに順位付けしています。例えば、①幸せにとって重要だと思うことに「身体の健康・医療介護」を記載した方は「4,443名」いますが、これは他の項目の中で最も多く記載されている項目であるため、「項目内の順位」の箇所に「1」と表記しています。なお、⑤では、①～④とその項目ごとの順位から見た特徴について、簡単にまとめています。

【身体の健康・医療介護】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	4,443名	1
	不幸・不安だと感じることに	1,942名	2
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.72	7
	不幸・不安だと感じることに	3.57	7
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	58.1%	1
	不幸・不安だと感じることに	26.3%	2
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	38.3%	2
	不幸・不安だと感じることに	26.2%	2
⑤特徴	幸せにとって重要だと思うこと、不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の人数は、ともに多い傾向にある。また幸福実感が高い方低い方共に、この項目を自由記述欄に記載した方は多い傾向にある。		

【家庭生活・家族関係】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	2,593名	3
	不幸・不安だと感じることに	762名	5
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.90	1
	不幸・不安だと感じることに	3.70	3
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	39.7%	2
	不幸・不安だと感じることに	11.5%	5
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	17.4%	3
	不幸・不安だと感じることに	9.7%	6
⑤特徴	幸せにとって重要だと思うことにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.90」と、他の項目の中で最も高い傾向にある。また、幸福実感が高い方低い方ともに、この項目を幸せにとって重要だと思うことに記載した方は多い傾向にある。		

【仕事・経済状況】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	2,697名	2
	不幸・不安だと感じることに	2,453名	1
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.51	11
	不幸・不安だと感じることに	3.39	11
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	30.6%	3
	不幸・不安だと感じることに	28.6%	1
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	45.1%	1
	不幸・不安だと感じることに	46.8%	1
⑤特徴	幸福実感が高い方低い方ともに、この項目を自由記述に記載した方は多い傾向にある。また、この項目を幸せにとって重要だと思うこと、不幸・不安だと感じることに記載した方の平均幸福実感度は、ともに他の項目と比べて低い傾向にある。		

【人間関係（特に家族以外）】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	1,115名	4
	不幸・不安だと感じることに	619名	7
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.76	5
	不幸・不安だと感じることに	3.62	6
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	15.4%	4
	不幸・不安だと感じることに	9.1%	6
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	10.8%	5
	不幸・不安だと感じることに	8.9%	7
⑤特徴	幸せにとって重要だと思うこと、不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は、ともに平成25年度から令和元年度までの区民アンケート調査に対して回答した全ての方の平均幸福実感度「3.57」より高い傾向にある。		

【安全安心・平和】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	1,077名	5
	不幸・不安だと感じることに	1,477名	3
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.77	4
	不幸・不安だと感じることに	3.81	1
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	15.0%	5
	不幸・不安だと感じることに	25.1%	3
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	8.9%	7
	不幸・不安だと感じることに	9.8%	5
⑤特徴	不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.81」と他の項目の中で一番高い傾向にある。また幸福実感が高い方で、不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の割合は「25.1%」と、他の項目の中で3番目に高い傾向にある。		

【心の健康・平穏】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	1,046名	6
	不幸・不安だと感じることに	169名	10
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.71	8
	不幸・不安だと感じることに	3.67	4
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	13.7%	6
	不幸・不安だと感じることに	2.6%	10
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	10.9%	4
	不幸・不安だと感じることに	2.1%	11
⑤特徴	この項目を幸せにとって重要だと思うことに記載した方と、不幸・不安だと感じることに記載した方の平均幸福実感度は、両者とも大きく変わらない傾向にある。		

【余暇・いきがい】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	878名	7
	不幸・不安だと感じることに	130名	11
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.66	10
	不幸・不安だと感じることに	3.40	10
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	11.4%	7
	不幸・不安だと感じることに	1.6%	11
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	10.8%	5
	不幸・不安だと感じることに	3.3%	10

⑤特徴	幸せにとって重要だと思うことにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.66」と、他の項目の中で3番目に低い傾向にある。不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の平均幸福実感度も「3.40」と、他の項目の中で3番目に低い傾向にある。
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【地域環境・住環境】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	753名	8
	不幸・不安だと感じることに	918名	4
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.68	9
	不幸・不安だと感じることに	3.63	5
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	9.4%	8
	不幸・不安だと感じることに	13.4%	4
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	7.5%	8
	不幸・不安だと感じることに	12.0%	3

⑤特徴	この項目を幸せにとって重要だと思うことに記載した方と、不幸・不安だと感じることに記載した方の平均幸福実感度は、両者とも大きく変わらない傾向にある。
-----	---------------------------------------------------------------------------

【子育て・出産・教育】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	552名	9
	不幸・不安だと感じることに	450名	8
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.87	2
	不幸・不安だと感じることに	3.79	2
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	8.3%	9
	不幸・不安だと感じることに	7.7%	8
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	3.3%	10
	不幸・不安だと感じることに	4.5%	8

⑤特徴	幸せにとって重要だと思うことにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.87」と、他の項目の中で2番目に高い傾向にあり、不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の平均幸福実感度も「3.79」と、他の項目の中で2番目に高い傾向にある。
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【食生活・食事】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	254名	10
	不幸・不安だと感じることに	54名	12
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.79	3
	不幸・不安だと感じることに	3.28	12
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	3.5%	10
	不幸・不安だと感じることに	0.6%	12
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	1.7%	12
	不幸・不安だと感じることに	1.5%	12

⑤特徴	幸せにとって重要だと思うことにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.79」と、他の項目の中で3番目に高い傾向にある。しかし、不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.28」と、他の項目の中で最も低い傾向にある。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【精神的な充実感】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	184名	12
	不幸・不安だと感じることに	-	-
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.74	6
	不幸・不安だと感じることに	-	-
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	2.5%	11
	不幸・不安だと感じることに	-	-
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	2.4%	11
	不幸・不安だと感じることに	-	-

⑤特徴	幸せにとって重要だと思うことにこの項目を記載した方の人数は、他の項目と比べて最も少ないが、平均幸福実感度は「3.74」と、平成25年度から令和元年度までの区民アンケート調査に対して回答した全ての方の平均幸福実感度「3.57」より高い傾向にある。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【孤独感・孤独死】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	249名	9
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	3.50	8
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	3.2%	9
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	4.3%	9

⑤特徴	不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.50」と、平成25年度から令和元年度までの区民アンケート調査に対して回答した全ての方の平均幸福実感度「3.57」より低い傾向にある。
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

【将来への安心感】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	224名	11
	不幸・不安だと感じることに	-	-
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	3.44	12
	不幸・不安だと感じることに	-	-
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	2.4%	12
	不幸・不安だと感じることに	-	-
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	3.5%	9
	不幸・不安だと感じることに	-	-

⑤特徴	幸せにとって重要だと思うことにこの項目を記載した方の平均幸福実感度は「3.44」と、他の項目の中で最も低い傾向にある。
-----	-------------------------------------------------------------

【不測の事態（将来への不安）】

各事項	「幸せ」・「不幸・不安」	各数値	項目内での順位
①記載者数	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	696名	6
②平均幸福実感度	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	3.49	9
③幸福実感が高い	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	8.6%	7
④幸福実感が低い	幸せにとって重要だと思うこと	-	-
	不幸・不安だと感じることに	10.3%	4

⑤特徴	幸福実感が低い方が不幸・不安だと感じることにこの項目を記載した方の割合は、他の項目と比べて4番目に高い。
-----	------------------------------------------------------

荒川区民総幸福度（GAH）レポートに関わる分析・執筆

荒川区自治総合研究所研究員

田中 祐亮

荒川区民総幸福度（GAH）レポート Vol.5
～区民アンケート調査の自由記述から見える幸福実感度～
令和4年9月

発行：公益財団法人荒川区自治総合研究所（RILAC）
Research Institute for Local government by Arakawa City

住 所 〒116-0002
東京都荒川区荒川 2-11-1
電話番号 03-3802-4861
ファックス 03-3802-2592
ホームページ <https://www.rilac.or.jp/>